

# 農薬豆知識【雑草のお話】

今年の除草剤の効きはどうでしたか？昨年、ご協力頂いた除草剤のアンケートによりますと、問題になっている雑草との問いに対して、オモダカと答えた人が26%で1位、2位はミズアオイで15%でした(複数回答)。今回は、そのオモダカとミズアオイについてお話いたします。

## 【オモダカ】

オモダカは、ウリカワと同じくオモダカ科オモダカ属の水田雑草であり、種子と根茎の先に形成される塊茎で繁殖します。しかし、多くの除草剤は種子から発生するものには有効であることから、水田で問題となるのは主に



オモダカ発生初～中期

塊茎から発生するものです。塊茎は深さ10～30cmに形成され、耕起や代かき作業により、さまざまな深さに埋没します。浅いものはイネの移植後から出始め、深いものは、6月中旬ころに出ます。このように長期間続きダラダラ発生することが、オモダカの防除を困難にしている原因です。オモダカの対策としては、発生が長いため、



オモダカ矢じり葉

です。

## 【ミズアオイ】

ミズアオイは種子のみで増える1年生雑草です。北海道では水田に群生する強害雑草ですが、府県では発生は少なく、一部の県では絶滅危惧種に指定されるほどです。

ミズアオイの特徴としては、8～10月頃になると、葉は光沢のあるハート型となり、葉より高い位置に青紫の花

# 《水田雑草について》



ミズアオイ発生初期

を咲かせます。ミズアオイの対策としては、なるべく早い時期での防除が有効です。最も効果のある時期は、発生前から本葉1葉期であり、2葉期を超えると有効な一発剤でも効果が低下することがあります。また、北海道の水田に発生するミズアオイのほとんどが、スルホニルウレア系除草剤(SU 剤)に抵抗性であり、ピラゾレートやベンゾフェナップ、ピラクロニルを含む剤が有効です。

果のある時期は、発生前から本葉1葉期であり、2葉期を超えると有効な一発剤でも効果が低下することがあります。また、北海道の水田に発生するミズアオイのほとんどが、スルホニルウレア系除草剤(SU 剤)に抵抗性であり、ピラゾレートやベンゾフェナップ、ピラクロニルを含む剤が有効です。



ミズアオイ発生初～中期



ミズアオイ開花期

今回はオモダカとミズアオイについて、お話いたしました。除草剤を上手に使いこなすためには、自分の水田に生える草を知っておく必要があります。今年、残ってしまった草種を確認して、来年の除草剤選びの参考にしましょう。

(新米次郎)

(2011年7月)